

令和元年度 学校評価のまとめ

1 今年度実施した学校評価

(1) 教職員・生徒・保護者による評価

12月実施、有効回答数（教職員 42名、生徒 160名、保護者 52名）

(2) 教職員による自己評価

1月実施、有効回答数（教職員 36名）

(3) 学校関係者評価

2月実施、有効回答数（学校評議員 5名）

2 各評価の分析と今後の課題

(1) 教職員・生徒・保護者による評価

評価全体として生徒・保護者の満足度は高く、全ての項目で肯定的回答が60%以上であった。これは本校の教育活動の成果が表れているものと認識できる。

教職員と保護者の評価で肯定的回答が90%以上あった項目は「学校は、文化祭で専門科の実習内容や文化部の発表の場を設けている」で、文化祭は教育活動の成果を発表し広報する場として重要であり、保護者も文化祭を重視していることが分かった。

教職員と保護者の評価の差が25%と大きかった項目は「学校は、毎学期「生活アンケート（いじめ行為含む）」を実施し、いじめの未然防止、早期発見に努めている」であった。生活アンケートを実施といじめ未然防止の取り組みが保護者に伝わっていないことが明らかとなった。同様に「学校は、各学期に個人面談を実施すると共に、家庭とも密接な連絡をとっている」肯定的回答61%と評価が低く、保護者に教育活動がしっかりと伝わる広報活動が今後の課題である。

(2) 教職員による自己評価

全体的に前年度と同じ評価となっているが、危機管理・防災教育・資格検定・ボランティア活動など5年前から評価が着実に上昇している項目が5つある。これは近年本校が力を入れて取り組んできたものであり、教職員に取り組みに対する高い意識が見られている。それに比して、広報活動・公開授業・部活動・生徒会活動で前年度より評価が下がっていた。広報活動は学校の取り組みが保護者や地域にうまく伝わっていない点がある。公開授業は実施しているが教員が主体的に取り組めていない面があり、教員の自主性・主体性を引き出す工夫が課題となっている。部活動・生徒会活動は生徒の自主性・主体性を十分に引き出せていないことに対する教員の反省が見られる。

(3) 学校関係者評価

学校運営全般に肯定的評価を受けた。今年度、力を入れて実践したボランティア活動など地域に開かれた学校づくりの取り組みと、生徒の希望する進路実現が来ている進路指導が高い評価を受けた。それに比して、教職員の資質向上とPTCA活動でやや低い評価を受けた。教職員の資質向上では、より生徒を巻き込んだ活動を要望されると共にPTA活動でも生徒とPTAがふれ合える活動を要望された。また、環境教育や社会人としての基本的な礼儀などをきっちりと指導して欲しいという要望がだされたので、次年度の課題として検討していかなければならない。